

令和4年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	天満東小学校
-----	--------

1 学校運営の目標・方針

「元気に明るくともに学ぶ子」
自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心を持ち 未来をたくましく生きる東っ子の育成

2 本年度の重点目標

1. 学びの楽しさを知り、積極的に自分の考えを持ち学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成)
3. きまわりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神)
4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)

3 学校自己評価結果 A:十分達成している(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)

C:どちらかという達成されていない。(あまりそう思わない。) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない。)

4 総合的な学校関係者評価

コロナ禍で様々な制限があり、教育方法にも影響がでていたと思われる。しかし、その中で大きな問題もなく教育活動を行っており、表に出ていない教職員の努力の結果であると思う。来年度は、制限も緩和されると思うので、授業、体験活動、地域交流を通じて「元気に明るくともに学ぶ子」の方針に向かって教育活動を継続していただきたい。

- ・今年度も、コロナ禍での制限がある中で、児童の健康に配慮しながら学校行事を行っていただいたことに感謝する。
- ・学びの楽しさを知るために、様々な工夫がなされ教育活動を実行されていると思う。各行事についても配慮や工夫を見ることができてありがたい。
- ・授業参観での児童を見と、落ち着いて学習に取り組み、発表もよくできていと感じた。教員の日頃の指導方法や授業改善の研修で取り組まれている成果だと思う。今後も校内研修等、継続いただきたい。
- ・厳しいコロナ禍の1年だったが、教職員の強固な協力体制のもと、すべての行事が実施され、保護者や地域の方も多くの行事に参加できたことに感謝する。
- ・制限のある中で児童のために、できることをやっていた。できない理由を探すことは簡単ではあるが、学校として児童にとって何が大切であるかをしっかりと考えて動いていただけたこと感謝している。来年度もよりよい教育活動を期待する。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	○開かれた学校づくりのため、学校だよりは、学校経営方針や教育に関する所感等を掲載し、自治会長、老人クラブ、民生委員児童委員、町議会議員(校区)の皆さんに郵送や児童を通じて配布し、各地域や団体では回覧していただいている。学校ホームページでは日々の教育活動についてできる限り毎日情報を発信し、家庭や地域との連携に努めている。今後も情報を発信し、学校・家庭・地域の連携に努めていきたい。
	・学校行事の時期や内容は適切である。	A	○今年度も新型コロナウイルス感染症対策を施した上で行事を行った。授業参観4月、6月(オープンスクール)は感染症対策のため、教室の廊下側の窓をはずし地区別による2部制で実施。運動会は10月に全校生が参加し、保護者制限なしで実施。音楽会は低、中、高学年にわかれ保護者2名の参観で実施した。学校行事は学校生活に潤いを与える重要な役割を担っている。今後も児童がより意欲的に学校生活に取り組みるように行事の時期や内容について改善策を考えていきたい。
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	○毎月、月末大掃除の日を設定し20分間の清掃活動に児童・教職員で取り組んでいる。日々の清掃は、給食後の限られた時間中であるが、児童と教師が丁寧に清掃活動を行っており、児童には、校舎等を大切に使うよう呼び掛けている。施設・設備の安全点検は、教職員が毎月、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換を行い、安全確保に努めている。
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができています。	B	○報告、連絡、相談の徹底につとめ、対応事例の指導経過や支援の必要な児童の情報を全職員で共有し、支援方法を検討している。困りごとアンケートの分析と事後指導の経過観察、Q-Uテストの分析、道徳の授業を通してよりよい人間関係の構築に努めている。いじめが認知されたときは、迅速に組織対応し、その後の経過観察に努めている。不登校に関しては別室(ハートフルルーム)を活用する等児童の居場所作り、個に応じた対応を行い、関係機関と連携を密にして取り組んでいる。
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	B	○避難訓練(火災、不審者、地震)を年間3回実施。今年度は、夏季休業中に警察の方に来ていただき不審者対応研修を実施した。交通安全教室では全児童を対象にオンラインによる講習を実施。自転車の乗り方、安全な登下校などについて学習を行った。教員による下校指導を毎月定期的(緊急時にはその都度)実施し、登下校時の児童の安全確保に努めている。今後も安全な登下校、交通事故防止や、危険箇所への対応、不審者対策等について、地域、家庭と連携し継続して取り組んでいく。
	・新型コロナウイルス感染症対策を講じて、学習活動等を行っている。	A	○手指消毒、換気、健康観察等を毎日実施している。また、教育活動を継続するため、感染レベルに応じて、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」に沿って学習を行った。
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業を心がけている。	A	○「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、定期的に校内研修を実施し授業力向上に努めた。今年度は算数科の授業研究に取り組み、昨年度導入されたタブレット端末を効果的に活用し、数学的な見方・考え方を豊にする授業づくりの研究を行った。DX推進にむけ、全国学力学習状況調査の質問紙を参考に振り返りを行い、計画的に研修を実施し教職員のICT活用力の向上に努めた。
	・評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	B	○新学習指導要領の評価の観点に即した評価規準や評価方法について、校内研修を重ね指導方法の工夫、改善に取り組んでいる。児童には努力した点や成長した内容については褒め、今後努力が必要な点については、具体的にどのような学習行動が必要であるかを児童の発達段階に応じて説明し、励ましながら指導している。今後も、児童の学習意欲をさらに高められるよう研修を継続してきたい。
	・児童に家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	○家庭学習や学習準備等の定着には、児童の意欲を高める指導が大切である。児童の学習意欲を高めるため、長期休業中にはタブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指して取り組んだ。児童の学びに応じた課題の設定、声掛けを工夫し、家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していく必要がある。
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	○今年度もコロナ禍の影響で制限が強いられたが、体験的な学習は教育効果も高いため、可能な限り感染症対策を行い積極的に実施した。自然学校、ふるさとの先輩出前授業、環境教室(天満大池でのあさざの植樹)など充実した活動を行うことができた。今後も、体験活動の充実にも努めていきたい。
	・道徳の授業を大切に、内容の充実にも努めている。	B	○いじめ問題、情報モラル、明日に生きるを活用した震災学習等、適切な教材を設定し授業を実施することができた。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。また、評価の充実のため、児童の心の変化の読み取り方の改善にも取り組んだ。今後も道徳研修を継続し、授業の充実にも努めていく必要がある。
	・読書活動を充実させている。	A	○毎月1回「家読の日」を設定し、家庭で読書に取り組み、全校生、保護者が感想を記入する活動を行っている。保護者も読み聞かせの時間を確保することで、子供とコミュニケーションがとれた等の意見がよせられ、家庭での読書習慣の啓発に努めた。図書委員会では、児童集会でおススメの本を紹介した。今後も、家庭と連携をはかりながら読書活動の充実にも努めていきたい。また、来年度は校内ビブリオバトルの実施も検討している。

学校自己評価の結果及び改善方針についての評価
・学校ホームページや各種より等で学校の情報を発信していただき、児童の様子や行事等を知ることができ感謝している。
・学校が目標としていること、進む方向、もの考え方等、学校だよりに大切な情報が凝縮されている。学校のことや教育内容を知ることができ、豊かな気持ちにより感謝している。
・コロナ禍での感染防止対策を考えながらの行事、教育方法等2年間で大きく変化が発生している中、学校運営は周りの方が思っている以上に大変だと思う。その中で児童とコミュニケーションを図り、特に大きな問題が発生しなかったことは教職員の努力や団結のおかげである。来年度は、コロナも緩和され速に変化が発生すると思うが、引き続き児童の教育のための学校運営をお願いしたい。
・コロナ以前を知らない児童が半分を占めている中、以前に戻すのではなく、子どもが子どもらしくあるために、本来あるべき姿に戻すよう進めていただきたい。
・マスクを外すように世の中の風潮がかわりつつあるが、感染不安からマスクの着用を希望する児童がいることも想定される。マスク着用の有無による差別・偏見等がないように学校での適切な指導をお願いしたい。
・コロナ感染防止のための工夫がある学校行事に施されており、実施できたことに感謝している。
・教員の下校指導はとてもありがたい。引率下校の中で、教師と児童が危険箇所等の再確認している様子を見て安心している。教員も忙しいと思うが感謝をお願いしたい。
・学校だよりで、学校や児童の様子を知ることができて感謝している。
・運動会が今年学年揃い実施できたのは、大変有意義であった。その中で譲り合いゾーンが良かった。もう少し奥行きが長くのとれどゆりやが持てるのではと感じた。改善を願う。
・掃除が行き届いているので、身も心も引き締まり勉強に集中できていると感じる。
・いじめの指導は小さいうちから善悪の判断ができ、正しい行動がとれるのが望ましいが、一筋縄ではいかないのが現実である。素早い対応と継続した見守りをお願いする。
・いじめや不登校の問題の対応に見逃しをしないと気概を持って取り組まれているのありがたい。いじめ見逃しゼロの気概を継続していきたい。
・児童一人一人に丁寧に関わりを持っていると感じる。ハートフルルームの活用も期待し、引き続き不登校の未然防止、居場所づくりの充実にも努めていただきたい。
・砂場の水道(蛇口)が破損している。普段使用しないところの修繕もお願いしたい。
・GIGAスクール構想により整備されたICT環境を適切に活用した授業や学習は今の時代に必要で教育であると感じる。コロナ後は、オンラインを活用した授業と従来の対面での授業をハイブリットで行い、情報活用能力の育成と、挨拶、思いやりの心育成の両立をお願いしたい。
・長期休業中のタブレット学習は、自らのつまづきを確認し、繰り返し学習できることがメリットである。今後もタブレット端末の効果的な活用をお願いする。
・タブレット端末を使用した学習は効率的で児童たちも楽しみながら学習できていると思う。苦手な分野も学習意欲が上がり、あきらめずに取り組むことにより成果があがることを期待している。
・タブレット端末を使いこなし、各学年で工夫して効果的に授業等に活用されていることに感謝する。今後も引き続きタブレット端末をツールとして様々な場面で活用していきたい。
・自然学校、修学旅行をはじめ、学校行事が滞ることなく無事実施することができた。感染症対策を徹底したおかげであると感謝している。
・家庭での読書習慣を進めるのに「家読カード」の活用は効果が大きかったと感じた。家庭でも本を読む機会が増え、内容を話してくれるようになっていく。引き続き取り組んでほしい。
・小学校で学ぶ内容はとても多い。授業に参加できなかったり、ついていけなかったりした場合は、それを改善する手立てや個人指導ができるような時間や場所があればと思う。
・コロナ禍で外部講師による体験学習が実施され学校側は対策に大変であったと思う。しかし、その分様々な分野の方による学習は児童にとっても貴重な学びや経験になったと思う。今後も地域と連携した交流を引き続きお願いしたい。
・様々な体験学習を通して受け入れるだけでなく、自分からも発信できるようになってきている。来年度も様々な体験学習を取り入れていただきたい。
・人を傷つける人間は自分がどれほど他人のことを大事にしているか、傷つけているかなどを想像する力を持ち合わせていない場合が往々にある。小さいうちからの異體を極めた教育をお願いする。地域も協力していきたい。
・中学校の制服が一新される。女子生徒がズボンなのは違和感がないと思われるが、男子生徒がスカートをはく時代も想定される。そのように多様性を認め合う雰囲気作りが教職員も含めて必要である。今年度のPTA研修では「性の多様性」についての講演会を実施したと聞いている。今後は、児童対象とした発達段階に応じた、「性の多様性」に関する学習の充実をお願いしたい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	B	○道徳科を中心に各教科、行事等、教育活動全体を通して、命の大切さや人と人の豊かなつながり、人権尊重の心を育てていけるよう心がけている。今年度は、新型コロナウイルス感染症状況をみながら、地域と連携した行事等も少しずつ行うことができた。また、2月には「いのち語り隊」の方々による命の誕生についての講話をしていただいた。保護者や地域の方等とともに体験する行事は、児童にとっては貴重な機会であるので、来年度も地域と連携した行事が実施できるよう努めていきたい。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	○環境体験学習では、3年生は天満大地でのアサザ保護活動に参加。5年生の自然学校は予定通り6月に4泊5日でハチ高原の自然の中で活動を行うことができ、大きな学びのある5日間となった。環境体験活動、自然学校ともに自然の中で充実した体験活動を実施することができた。郷土の自然を大切にす心や、自然の中で友達と協力しながらの体験活動は、児童にとっては貴重な体験であるので、来年度も各学年に応じて学習内容を工夫しながら進めていきたい。
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A	○4月に災害対応マニュアルを全教職員で見直しを行い、今年度は、5月火災、11月の不審者対応、1月地震の避難訓練を実施した。昨年に引き続き今年度も、訓練後は、Googleフォームを使った振り返りアンケートを実施し、結果を学校だよりで家庭や地域に報告した。アンケート記述欄では、訓練の重要性について触れている児童が多く見られた。自分の命を自分で守ることを意識させるため、今後は、教室以外や休み時間等での訓練の充実にも努めていきたい。
	・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	B	○外国語活動(3、4年)、外国語科(5、6年)ともに英語専科、ALT、学級担任が連携して授業を進めている。中学年では、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」を中心に外国語に慣れ親しみ、高学年では、「読むこと」「書くこと」をコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に努めている。今後も児童が意欲的にコミュニケーションを行えるように継続して取り組んでいきたい。
努力目標	・学校は授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	A	○学校教育目標を「自ら学ぶ意欲と他を思いやる優しい心をもち未来をたくましく生きる東っ子の育成」と掲げ、毎時間の授業をはじめにその時間の目標を提示し、終わりには振り返りを行うことにより、目標が達成できたかどうか各自で確認している。タブレット端末を積極的に活用しながら、「わかった できた」という学びの充実を味わわせる授業づくりに努めている。
	・学校は、学校や家庭地域で自分から進んであいさつできる児童を育てようとしている。	B	○今年度は「あいさつあじさい運動(あいさつは自分から先に言えるよどこでも、だれにでも)」を合言葉に、自らから進んであいさつのできる児童の育成に努めている。登下校時、校内等では、あいさつができる児童が増えているが、地域でのあいさつができないという声もいただいております。学校、家庭、地域が連携して今後も取り組んでいきたい。
	・学校は友だちと決まりを守り、仲良く協力できる子を育てようとしている。	A	○児童会活動では「自分から動く(考動)」を呼びかけ、誰かが困っていると思ったら声をかけたり助けたりする、協力してして活動する、話かける、話を聞く、友だちのいいところをみつける等について児童集会で全校生に呼びかけている。児童同士のトラブル等には、担任がその都度、事実確認、必要に応じて謝罪をし事後経過観察を行っている。関係児童の保護者へは、詳細を連絡し、事案によっては、直接保護者に会い、児童への声掛けと見守りを依頼している。
	・学校は、体育・保健学習や食育を通して、自分の体や心を大切にしようとする心を育てようとしている。	A	○栄養教諭による食育の授業、健康委員会による残食調べ等、学校校全体で食育に取り組み、特に食に関する自己管理能力のカリキュラムにそって持続可能な食育に取り組んだ。体育では授業だけでなく、スポーツテスト、運動会、駆け足チャレンジ(めざせ神戸)等を行うことで児童が興味を持って取り組み、体力向上につながるよう努めている。
	・学校は、話したり書いたりすることを通して、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる子を育てようとしている。	B	○各教科の学習において、児童が自分の思いや意見をタブレット端末にまとめ、グループで意見を交換したり、みんなの前で自分の発表ノートを大型提示装置に映し出し説明をしたりする機会を設定しているが、長い期間のマスク着用の影響もあり、自分の思いを相手にしっかりと伝えることが苦手な部分もある。今後も継続して指導に取り組んでいきたい。

自己評価における特記事項

・新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの1年間であったが、保護者や地域も方々のご理解、ご協力のおかげで、コロナ禍での教育活動を進めることができた。児童の小さな変化にも目を配り、児童が抱えるストレスや不安に適切に対処して、心身の健康を保つことをさらに支援していきたい。

・学校運営協議会を中心に、学校、家庭、地域がお互いに連携、協働して子どもたちの教育に取り組んでいくため、家庭との連携を密にし、家庭教育に関する必要な情報の提供を積極的に行っていく。

・どんと大会が今年度は実施され、地域行事が少しずつもとに戻りつつある。どんと大会では多くの児童、保護者が参加する姿が見られた。今後も引き続き、PTOA活動の充実等地域に根ざした伝統文化や芸術文化にふれる機会の充実を通して、地域を大切に思う心(ふるさと意識)の醸成に努めていきたい。

・登校時の「おはようございます」校内で教職員や来校者への「こんにちは」、下校時の「さようなら」など、その場に適したあいさつが校内ではきているが、マスク着用の定着、大きな声を控えるというコロナ対策により、最近ではあいさつの声が小さい、地域ではあいさつができていないとの意見もいただいている。今後は「いつでも、どこでも、だれにでも、自分から」あいさつができる児童の育成にむけ、家庭、地域と連携しながら取り組みを継続していきたい。

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・制限がある中でも、体験活動を含む多くの行事がよく考えられ実施されたことに感謝している。 ・コロナ禍により、制限がある中で5年生の自然学校、3年生のアサザ植樹等の体験活動が実施できたことは、児童の成長に大ききつながったと思う。教室での授業だけでは体得できない自然に係る体験活動を通して、達成感や自己有用感を高めることができたのではないかなと思う。 ・児童は、様々な体験活動を通して感じる力、創造する力、相手や思いやる気持ちを身に付けていると思う。 ・アサザの植樹は土地改良区の方等、地域の方のお世話になり長年天満東小小学校で続いている伝統ある体験活動である。今後も継続し、学校、家庭、地域のつながりを深めていきたい。 ・避難訓練は素早く動けるように、より実践に近い形で実施していただきたい。 ・避難訓練や防災学習を通して、家庭でも非常時ほどどこに集まるのか等を考えるいい機会となった。 ・いつ起こるかわからない災害であるので常に訓練は大切である。また、下校時の不審者対応も的確にできるよう、指導願いたい。 ・避難訓練は何回か経験した後に予告なしや教室以外や休み時間に実施することは重要である。いろいろな想定で行うことで、真の姿が見え、課題が明らかになり、学びにつながると思う。実際の場面できっと生かされるよう願う。 ・避難訓練は毎回、グループフォームを活用し、全学年の児童が振り返りを行い、学校だより等でアンケート結果を報告いただいている。学校の細かな取組に感謝している。 ・学習発表会の座席指定は工夫がなされていたと思う。各家庭で平等になっていた工夫に頭が下がる思いだった。 ・小学校から英語を本格的に学んでいるのに驚いた。中学校でも小学校での学びを活用できるよう、英語に慣れ親しんでほしいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶できている児童が増えており、「あいさつあじさい運動」の取組の成果と思える。 ・「あいさつあじさい運動」はとても素晴らしい取組だと思う。学校へ行った際は、いつも児童の方から笑顔で挨拶をしてくれ心が温まる。先生方のご指導に感謝する。 ・挨拶は見守りの人や顔見知りの人、学校内でするのは当然ではあるが、道であった人に挨拶をするのは不審者のこともあり難しいかと思われる。TPOに応じた挨拶ができるような指導が必要ではないかなと思う。 ・挨拶をする児童が多くなっている。自転車通学をしている東小出身の中学生がしっかりと挨拶してくれるのは、小学校の時の流れを引き継いでいるかと思う。今後も地域として見守っていききたい。 ・挨拶は人間関係をよくするためにとても大切な行為である。出会ったときは率先して挨拶することで、徐々に自然な形でできるよう身についていくと思う。地域でも気持ち通じ合う挨拶をしていきたい。 ・学校目標である「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち、未来をたくましく生きる東っ子の育成」を目指して、今後も教育をしていただきたいと願う。個人差もあり難しいと感じるが、教職員の支援により、目標を達成していただきたい。 ・毎時間に学習のふりかえりを行い、一人ひとりの学びを確認するのは大変な努力がいることが、児童にとってはその時間の内容の定着につながると思う。教員の指導力の向上を願う。 ・自分の考えや思いを相手に伝えるように話す力を伸ばすことは大事なことである。小生から教育されていると社会に出ても臆することなく話せるようになること期待している。 ・食に関してアレルギーやアナフィラキシーショックなど命と直結している中で気苦労が多いことと察するところであるが、しっかりと見守っていただきたい。 ・放課後遊びが少なくなり、高学年と低学年児童との関りが少なくなる中、業間を活用し

項目以外での来年度の課題や具体的改善方策

・DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に向け、タブレット端末の効果的な活用法について、今後も引き続き教職員で検討、研修を進める。デジタル教材を活用した新しい学びについても研究、研修に努める。

・来年度はオープンスクールの機会を増やし、児童の学びの様子を保護者や地域の方に見ていただく機会を十分確保していきたい。信頼される開かれた学校づくりのため今後は、保護者や地域の方と情報を正しく共有することが大切であり、これまで以上にPTAや各種団体との連絡・連携に努めていく。

・今年度の全国学力・学習状況調査(国語)の結果では、「目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題がみられた。来年度は課題に対して、まず児童一人ひとりが思考し、それを基にグループ等で話し合いや討論を行う対話型の授業を通して、異質な意見の相互発見や多面的意見が芽生えるような授業づくりを研究していきたい。また、対話型、探求型授業を通して、児童一人一人に「説明力」「批判的思考力」さらには、「多面的な観察力」「メタ認知力」を育むことができるよう研究・研修に努める。